



KSKQ 萌風香 2022年度 秋号

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

社会福祉法人萌 広報紙 NO.78 2022.10.21 編集人 社会福祉法人萌 定価 150円
〒630-0256 奈良県生駒市本町7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

実践と理念の共有を! 夏の全体会「ヤングケアラーを知っていますか？」

社会福祉法人萌では、職員の全体研修会を毎年2回(夏・冬)行っています。職員のスキルアップとともに、法人の理念・方針を理解した実践を共有し、法人職員としての意思統一を図ることを目的としています。

今年の夏の全体会は、コロナ感染状況を踏まえ動画視聴の形で行われ、法人内外で受講した研修の報告と基調講演がありました。

基調講演では、「ヤングケアラーを知っていますか?」と題して立命館大学の斎藤真緒先生からヤングケアラーの概要と支援に必要な視点について、また、精神障害のある親のケアをしてきた当事者から自身の経験と必要な支援についてお話いただきました。

お話の中で次の3点が印象に残りました。

- ① 人生の土台作りをする子ども・若者の時期に、家族として、自分がケアラーと意識せずにケアを担っているという固有の状況があること
- ② 社会問題の一つとして「ヤングケアラー」が取り上げられ、全国の自治体で「ケアラー支援条例」ができてきている一方、介護の社会化と言われても、現状は家族がケアを第一義的に担わざるを得ない制度・社会のしくみであること

- ③ 家族まるごと支援、すべての世代に対しての多様なケアラーに対する支援の視点が必要であること

私たちの実践の中で取り組むことは、

- ① 普段の支援の中で、ケアラーがケアする人=利用者本人へ必要な支援がきちんと行き届いているかをしっかりと検証すること
- ② 家族やヤングケアラーと言われる子どもにも自分の人生を選択する権利があり、それを保証できるように、ケアラーに寄り添った支援をしていくこと
- ③ ケアラーのニーズを把握し社会に発信していくこと、そして、全てのケアする家族に対しても、社会全体で支えるしくみを作っていくこと

ヤングケアラーと言われる子ども・若者だけでなく、精神障害のある当事者のいろいろな世代の家族に対して、ケアの担い手としての役割を期待するのではなく、家族が自ら望む生活・人生を歩んでいけるような社会を作っていきます。

【福祉統括部長 山本桂子】

ヤングケアラーとは家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子どものこと(国によって定義は異なります。日本ケアラー連盟の定義から)

四徒然

社会福祉法人萌
理事長 吉川郁子

障害者権利条約の日本の取組
みについて、9月9日国連が勧告
を出しました。

その中の一つとして、精神障害
者を取り巻く状況について強く改
善が求められました。

日本における精神科への強制入
院は「自由の剥奪に相当する」と
認識され、強制入院を可能にして
いる全ての法的規定の廃止や入
院が必要かどうかのチェックなど
が盛り込まれています。

国際社会と日本では、人権を守
る意識に大きなズレがあることを
改めて気づかされました。

国内の法整備は急務ですが、併
せて福祉制度の拡充が必要です。
地域の福祉サービスが充実す
ることで安心して退院できるだ
けでなく、病気とうまく付き合う
ための支援のしくみが強制入院
を減らすことにもつながります。

福祉面の改善も注意深く見守
ることが重要です。

生駒エリア

生活支援センターコスモールいこま 0743-73-7000 地域活動支援センターコスモールいこま 0743-73-0900
ひだまり 0743-85-4196 コミュニティスペースはなな 0743-73-1050
グループホーム楽都 0743-73-0141

待ってました!どんどこまつり!

生駒の夏といえば「どんどこまつり」というほど市民に愛されています。その活気のあるお祭りが新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、中止及び納涼花火のみの開催が2年間続いていました。

今年はコロナ対策を実施しながら、たけまるホールやベルテラスいこま、生駒駅前を中心に新しい形で行われました。

2年ぶりのまつりは大盛り上がり。出店に声をかけてもらい、はななで作った焼菓子を販売し、市民の皆さんと交流できる機会を得られて嬉しく思っています。

当日店番をした利用者からは「楽しかった。次出店する時は、コロナを気にせずお客さんの呼び込みをしたいな」と話していました。

街の活気が戻りつつあり、私たちも「地域とのつながり」を意識した関わりを今までと変わらず築き上げていきます。



活気が戻り、楽しく販売できました!

3年ぶりの対面実施!!



自分の体験を熱く語る、えのやん(左)、ひろやん(右)

コロナ禍でYouTube 配信での実施が続いていました IKOMA サマーセミナー(※)が8月21日(日)たけまるホールで行われました。

「こころの健康も大切に」という3時間目の授業で、教室に集まった15人の参加者に「えのやん&ひろやん」の体験談発表を伝えました。

「生の声での体験談はとてもわかりやすく、ためになった」「最初に病名を聞いた時、地獄だと思ったのに、今はこうして、病とうまく付き合いつつ、頑張っておられるのですね。すばらしいです」などの感想がありました。

リモートでの研修も便利ですが、対面でこそ伝わる思い、熱量を感じた有意義な時間でした。

(※)IKOMA サマーセミナー

「だれでも先生」「だれでも生徒」を合言葉に、市民の皆さんが「1日限りの先生」になって楽しい学びの機会を提供しあう「まちの学校」です。

主催:IKOMA サマーセミナー実行委員会

事務局:生駒市生涯学習課

電話番号

080-6225-0780

ひとりぼっちをゼロに

「ピアスマイルいこま」の電話相談が11月から月2回に増えます。また、名称が「ピアスマイルいこま電話相談」から「なごみライン」になります。

日にち:毎月第2火曜日・第4日曜日(体調により休むこともあります) 時間:14時~16時
対象:精神障がいのある人 費用:通話料がかかります

ピア電話相談「なごみライン」

郡山エリア			
生活支援センターふらっと	0743-54-8112	地域活動支援センターふらっと	0743-54-3977
ふれあい工房	0743-54-6701	彩食キッチンBon	0743-58-5572
グループホームもえぎ館	0743-85-4112		

何の秋?食欲の秋!~お食事選手権~

郡山エリア各所の利用者の皆さんが食べている栄養・愛情満点の食事を一挙ご紹介!日々の暮らしにはやっぱりおいしい食事は欠かせません。

相互理解を深めるために

「にも包括ワーキンググループ」(※)は、大和郡山市の強みである「顔が見える関係」をさらに一歩深めるためにケース研究を行っています。

架空のケースをもとに、病院や訪問看護、行政機関、福祉事業所などがどのような役割を担えるのか、各々の視点や特徴・強みを知ることで、より良い支援が行えることを目標にしています。

第1回のケース研究では医療中断となっている当事者への支援や、精神科での任意・強制入院、治療について等参加者で意見を交わしました。

同じ当事者に関わる時にも立場により各々の視点があり、新たな気づきや役割の違いについて知ることが出来ました。

支援の中で困ったことを振り返り、支援機関の役割、機能を正しく理解しあい、地域全体で連携を円滑に行えるように継続してケース研究を行います。

(※) 大和郡山市地域自立支援協議会でやっている精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について協議しているワーキングチーム

大和郡山市障害者家族教室のお知らせ

大和郡山市は毎年障害者家族の方に向けて、家族教室を開催しています。

障害や病気、関わり方について学べる場となっていますのでぜひご参加下さい。事前の申し込みは不要です。

第1回 10月18日(火)14:00~15:30
「統合失調症と気分障害について~薬のお話も含めて~」

講師:奈良県総合医療センター濱野泰光 医師

第2回 11月28日(月)14:00~15:30

「家族として当事者にどうかかわっていくか」

講師:梅花女子大学心理学科 瀧本優子教授

場所:大和郡山市市民交流館

お問い合わせ先:大和郡山市障害福祉課



かぼちゃの皮まで食すのがBonの流儀



手作りプリンはお客様にも好評



愛情いっぱい、お腹いっぱい!



家庭的なメニューと味付けがポイント



みんなで作ると美味しさアップ!

彩食キッチン Bonは色鮮やか。「シフトも美味しいご飯で頑張れる!」「健康の秘訣は野菜多めのお昼ご飯」と好評です♪

BonCafeはしっかり「お肉」のガッツリ満腹系。もちろん栄養バランスばっちりです。店舗のデザートが出るラッキーデイトもあります。

ふれあい工房はレストランの賄いや調理職員、ボランティアの手料理と多様です。栄養バランスが良く、ボリューム満点!みんなの健康とパワーの源です。

グループホームもえぎ館・みらい館は、家事サポーターさんが作ってくれます。メニューも豊富で、おいしくボリュームもあります!

地域活動支援センターふらっとは、その日に集まったみんなでメニューを決めて作ります。美味しく栄養バランスの良いものを試行錯誤して作っています!

西和エリア

生活支援センターぼると・ベル 0745-43-5541 地域活動支援センターまーぶる 0745-75-6545
らそら 0745-70-1577 グループホーム彩友館 0745-43-9333

第4期中期計画 西和エリアの取り組み

西和エリアでは、法人の中期計画（詳細は萌風香春号をご参照ください）に基づき、表①～③でテーマを絞り、エリアの中期計画を進めています。

- | |
|--|
| ①「コロナ禍における（地域移行支援の確立）
長期入院の解消に向けて（B-1）」 |
| ②病気・障害関係なく誰でも集える居場所づくり（C-1・2）」 |
| ③地域貢献や住まい支援等に繋がる企業との
協働事業の創設（C-2）」 |

①未来につなぐれ！（B-1）

コロナ禍により、入院患者の外出や外泊、面会ができない厳しい状況が続いています。

そのような中でも、何かできることはないかと検討をし、ハートランドしぎさん（以下、同病院）との交流会を継続しています。

8月2日、同病院の地域医療連携部の相談員から、病院の概要と新型コロナウイルスが地域移行に与えた影響について教えていただきました。

これまで当たり前できていた外出支援ができないことで職員自身の退院支援についての知識や経験が増えないとのことでした。

質疑では、「なぜ長期入院になってしまうのか」など、率直な質問や意見が飛び交いました。「病院」と「福祉施設」という働く場の違いはありますが、地域移行を共に進めていけるよう、今後も交流を深めていきたいです。



今ではオンラインも慣れてきました！

②“居場所”を考える（C-1・2）



意見を出し合いイメージを共有

生きることに苦勞を抱えているのは、障害者だけではありません。

障害だけではなく、ひきこもりがちな生活になっている人や、人間関係に難しさを感じている人など、苦勞をしている人がいます。

そのような人たちが行き場所や居場所がなく苦勞している現状がありました。そんな思いからこのテーマが決まりました。

まずは、職員間の共有認識づくりや情報収集から取り組んでいきます。

③Give & Takeな仕組みづくり（C-2）

これまで実施してきた「西和ふれあいまつり」「フードドライブ事業」を通じて、ありがたいことに西和7町内の様々な企業や商店、飲食店との接点を持つことができました。

イベントの時だけでなく、日常的につながりを持つような仕組みを模索しています。

連絡手段の主流となっているSNS（LINE）をうまく活用し、「協力できる人」と「必要としている人」をマッチングできる仕組みづくりを検討中です。

本取り組みから、もっと西和7町内の地域の資源（人も含めた）を知り、様々な人たちと顔が見える関係づくりもできたら良いと思っています。

高田エリア

生活支援センターなっつ	0745-23-7214	地域活動支援センターなっつ	0745-23-8105
マインドホーム高田	0745-23-8072	おかわり	0745-23-5625
えいぶる	0745-52-5752	あっとほーむ香芝	0745-44-8023

地域の生き活きにも貢献したい ～えいぶるで2年越しお披露目式～

2020年に内本町に移転したえいぶる。コロナウイルスの感染拡大の影響でできていなかった竣工式に代わり、お披露目式を開催しました。

式典に出られなかった利用者も含めて施設内の飾りつけや原稿づくりを行いました。机を飾る花飾りを作って持ってきてくれるパート職員や、当日にお菓子などの差し入れもあり、多くの人力を借りながらの準備となりました。

当日は雷も鳴る大雨にもかかわらずすみれ会(家族会)や大和高田市の障害福祉課、近隣の地域住民やその他関係機関からの参加があり、無事に開催。利用者が代表し「こういったきれいな建物で活動を頑張ることができて嬉しいです」と挨拶をしました。



えいぶるの活動を紹介しました

式典の後は施設内を見学。パワーポイントを作成し、製菓作りだけでなく物品販売やコスモスプラザでの喫茶店など、所外活動を紹介しました。

また、仕事内容だけでなく、サロンや面談室も案内した際に、参加者から「仕事以外のゆっくり休めるスペースも大切なんですね」「地域には独居のお年寄りも多いので、1階のフリースペースもそういった事業などに活用できたら良い」といった声が聞かれました。

利用者からは「コロナ禍なので小規模と聞いていたけれども、思っていたより来客が多くて利用者代表挨拶のスピーチをするのに緊張した。最後に所長とえいぶるの商品をPRできた」と話していました。



代表で挨拶をする利用者

茂野由紀子所長は「地域の皆様に足を運んでいただき本当にありがたいと感じています。メンバーだけでなく地域の方の「生き活き」にも貢献できるような存在になっていきたいです。」と語ります。

えいぶるの活動をより知ってもらうことができた日となりました。

えいぶるの活動をより知ってもらうことができた日となりました。

優生思想通じて「当たり前」を点検 ～国賠訴訟学習会に参加～

高田エリアでは、精神科病院の社会的入院の解消を目指すワーキングチームがあり、病院との交流会などの活動を続けています。

今回は、社会的入院が起きてしまう背景を学ぶため精神国賠訴訟の勉強会に参加しました。

テーマは「選別の論理と歴史と精神障害者」です。優秀な遺伝子を保護し、劣っているとみなされた遺伝子を排除するという優生思想の歴史を学びました。

研修後は、ワーキングチームで講義内の「最初はおかしいと思っていたことが慣れてくるとおかしいと思えなくなる」という話について、普段の私たちの関わりや当たり前になっていることを改めて点検する必要性や、誰もが安心して居ることができる居場所作りの大切さについて議論しました。

研修内容は高田エリアの会議でも報告し、その場でも普段の実践を振り返りながら話し合いが行われました。

社会的入院はすぐに解消できる課題ではありませんが、「退院が難しい状態だから仕方がない」「コロナウイルスの影響があるから難しい」ではなく、医療機関のドアをノックし関わりを続けることがその人の人権を守るためにも必要なことだと改めて実感することができた勉強会でした。

檀原エリア

生活支援センターぴあぼ〜と	0744-24-2020	地域活動支援センターぴあぼ〜と	0744-24-2070
生活支援センターいろは	0744-32-7753	ひなた舎	0744-32-7745
Pi+八木	0744-21-5666	グループホーム南	0744-24-2050

多種多様な発表に刺激いっぱい! ～エリア視察研修体験記～

残暑厳しい9月2日、遠路はるばる群馬は高崎の地に降り立ちました。

なぜ、こんな遠方に行ったのか。それは、エリア視察研修の一環で「日本精神保健福祉士協会全国大会inぐんま」に参加するためです。

2日目の分科会に参加しました。若手からベテランまで幅広い世代の専門職が実践報告や研究発表がされていました。

内容は、「コロナ禍で急増した自殺の予防」「当事者研究を用いた個別支援」などのケースワークからソーシャルアクションまで、幅広い実践や研究の発表がありました。

特に自分と同世代の専門職が、実践報告を堂々と発表している姿を見て刺激を受けました。

全国大会に参加したことで、様々な分野にわたり幅広く精神保健福祉士が活躍できることを新たに認識し、視野が広がったことを実感しました。

今回得た学びを胸に、群馬名物のだるまのように七転び八起きの精神で頑張っていきたいと思えます!



ゆるキャラぐんまちゃんとハイチーズ! ☆

圧巻の世界遺産 富岡製糸場!



画像提供 富岡市

ローカル私鉄、上州電鉄高崎駅からのどかな田園風景を眺め、電車にゆっくり揺られながら40分、で富岡駅に到着します。そこから、徒歩15分ほどで、赤い煉瓦造りの建物が見えてきます。

明治初期、日本の急激な近代化と殖産興業をけん引する当時最新鋭工場だった富岡製糸場です。

約150年経ちますが、建設当時と変わらないまま残っている洋風の建物に驚きました。

ガイドさんに場内を案内してもらい、一番印象的だったのは、繰糸所です。

通路の両側に、操業停止当時のまま自動繰糸機がズラリと並び、高い天井、奥行きが広さの圧巻です。女工さんが、立ちながら並んで作業する光景が浮かんできそうです。

当時は電気もなく窓ガラスからの自然光で作業をしていたとのことでした。

また、開業当初に使用していたフランス式繰糸器で糸とりの実演実施があり、間近で見学をしました。繭から、かなり細い生糸を1本取り出して、最終的には複数の糸で束にして生糸にしてく本当に根気のいる細かい作業です。

群馬はもともと桑畑も多く、養蚕業も盛んで石炭も豊富だったことや、広い敷地が取れるということからこの地が製糸場に選ばれました。

日本の近代化や富岡製糸場の歴史を学べたことは、とても有意義な時間でした。

115年間一度も休止することなく連続操業を行い昭和62年に創業が停止された世界遺産・富岡製糸場には是非足を運んで、その歴史を肌で感じて頂ければと思います。

2022 利用者投稿コーナー テーマ「コロナと私」

毎日着けるマスクについての作品が目立ちました。早くマスクの要らない社会に戻って欲しいものです。たくさんのご応募ありがとうございました!

コロナ模様の
昨今近し
ひだまりなりか
小林 一休

コロナ禍で
マスクするのは
息苦しい
かよちゃん

私の雑談
出来ない苦しみ
取り除いて下さい
杉野 憲司

コロナ禍で
ワクチン打つと
熱が出る
くまちゃん

コロナ禍の
マスクに隠れる
入れ歯デビュー
しゅう

みんなで戦えば
やつつけられる
With コロナ
ayano

コロナに屈しない
立ち向かえる
キリヨク
夢く阿

コロナよ!!
これ以上
人を殺すな!!
ささかまぼこ

コロナにて
深く染み入る
ひとの愛
榎田 伸也

コロナさん
もつとよいもの
おくれよね
清美

コロナ禍でも
人間関係は
そのままに
徳嶋 三太夫

不快なマスク
今やおしゃれの
アイテムに
尾崎 由英語

マスクして
ひげを剃る手間
省けてる
nimizuk

COVID-19
閉鎖した蜜
解き放て
岸 愛子

コロナなり
おほのえんじょ
ありがたや
ラビットてまり

ああコロナ
コロナばかり
疲れたわ
ちゃん

コロナ禍で
おいっ子
コロナストープ箱をける
とろとろかめっ子

コロナ禍の
この世の中で
生きていく
浅野 盛秀

コロナと聞いて
怖いと思うのは
私だけ?
ナベ

「コロナと私」で
まだコロナだと
我に返り
おっか

コロナがね
早く自由に
なりたくない
Ofuji MASAKI

コロナとも
戦争も
ともに地球号
関野 秀和

秋きたれば
なつかしくては
いちずかな
藤田 広隆

夏の時期
チャリで通い
秋にマスク焼け
天野 奏

もう死にたい
コロナになったら
まだ生きたい
ヤガミ・サカザキ

コロナなか
スポーツ観戦に
いけない僕
岡やん

なつがすぎ
ベストはおるよ
マスクもね
マーボー

まだコロナ
どこにも行けず
まいっちゃう
さとこりん

コロナ禍の
夏の仕事の
かこくさよ
江戸川 小五郎

コロナ禍で
早く会いたい
家族の顔
あかねっち

知恵袋のおすそ分け

「ハンバーグの具にジャガイモのすりおろしを入れたらふんわり仕上がる」「片栗粉を牛乳で溶いたら即席ホワイトソースになる」「使い古した歯ブラシに歯磨き剤を付けて洗面台を磨く」「小さく丸めたアルミホイルを 2 つほど排水口に入れておくと、ぬめりや臭いを防ぐ」等々、ちょっとしたコツや秘訣の情報源は利用者さん、メディア、人生の先輩など様々。

その文末に「のださうですよ」をつけて、支援の中で豆知識のやり取りをするのは密かな楽しみです。

押し付けにならないように配慮しながら、奇抜すぎず苦笑するしかないことも含めて、「へえーっ」となごめるひと時をプラス。

自分の生活に関心を持つきっかけとなれば、とそんな思いも入った知恵袋です。

IPS の勉強会を実施

ライクでは複雑多様化する働き方や、障害者雇用の施策や情勢に対応すべく、職員のスキルアップや、関係機関と連携を強化する取組みを進めています。

今年度は個別の就労活動支援と職場定着支援を中心とした就労支援モデルである「IPS」についての学びを深めることをテーマとして、8月2日に関係機関と合同での勉強会を行いました。

勉強会では IPS が開発された背景や内容について確認した上で、意見交換を行い、その中で「リカバリー」や「ストレングス」について、理解を深める必要性があると確認しました。

今後は更に事前学習を進めながら、実際に IPS プログラムを実践している事業所への視察を行う予定です。



★萌風香の購読★

萌風香は年 4 回 1500 部ずつの発行です。皆様のお手元に届いた後、萌のサービス利用者以外の方で「引越して住所が変わった(住所変更)」「次からは送ってもらわなくても結構です(購読中止)」という場合、お手数ですが必ず萌風香編集部ひだまり(0743-85-4196)までご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

▽萌 後援会からのご案内

萌後援会は「社会福祉法人萌」の活動を支援していただける皆様を募集しております。

主な目的は法人事業の支援や寄付を行なっています。

会費の納入及び寄付の受付口座は郵便振替 社会福祉法人萌後援会 00920-4-221824

後援会事務局(萌総務部内) 0743-54-0821(大東)

▽ハートフルこおりやま 精神障害者の社会参加をすすめる会

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくり」をすすめる当会では、会の趣旨に賛同頂き、活動に協力して下さる会員さん・ボランティアさんを大募集しています!!年会費は1口 500 円(2 口からお願いします)です。

連絡先:会事務局 ふらっと内 0743-54-3977(帯田)

▽ひだまりクローバー 生駒精神障がい者後援会

第 27 回トーク&ライブひだまりクローバー2022 開催決定! 12月10日(土)13時受付:13時半~生駒市図書館市民ホールにて。生駒市民吹奏楽団生駒ウインドオーケストラによるコンサートです。参加費1000円(障害者手帳割引あり)

連絡先:コミュニティスペースはなな内 0743-73-1050(佐藤)

▽地域家族会の情報

新型コロナウイルスの影響で、各例会の開催が中止・延期など変更されています。詳しくは、下記の各団体・お問い合わせ先にご確認ください。

詳細は まほろば会(NPO 奈良県精神障害者家族会連合会)

TEL:090-9213-2731 FAX:0742-51-5506 <https://nijironokaze.jimdo.com/>

名称	月例会	時間	場所	問い合わせ先	電話番号
さくら会 (大和郡山市周辺)	第 3 日曜日	13:30~	三の丸会館	会長関野	0743-54-6375
ひだまり会 (生駒市周辺)	第 3 土曜日	13:30~	市民活動推進センター ららポート	会長上村京子	0743-78-0885
西和家族会 (西和 7 町周辺)	第 4 土曜日	13:30~	王寺町やわらぎ会館	西村	0745-74-6203
すみれ会 (大和高田市周辺)	第 3 日曜日	13:30~	大和高田市中央公民館	三島	090-9889-7984
のぞみ会 (橿原市周辺)	第 2 日曜日	13:30~	県心身障害者 福祉センター	ぴあぼ〜と	0744-24-2020